



阿武郡報

第六十六號

大正十一年七月廿四日印刷
大正十一年七月廿五日發行
◎(每月一回二十五日發行)

次 目

臨時郡會	一〇
庶務	七
町村長集會	四
郡制實施以來郡費町村賦額	八
阿武郡名譽職參事會員補缺當選	八
四五月分町村稅納稅狀況	九
德佐村歌	七
學事	四
阿武郡女教員大會	一〇
阿武郡教育會教科研究員派遣	二〇
小學校教員協議會出席者	二二
小學校家事科割烹用器及教授細目	二四
私の考案したる割烹器(内山訓導)	二四
産業	三
第一回紫福村農業經營品評會	三八
阿武村産業技術員設置郡費補助狀況	四〇



臨時郡會

會 期

本年度第一回阿武郡臨時郡會は七月二十日より二日間毎日午前九時より開會せり

出席議員

第一日の出席議員は二十七名にして欠席者は生雲村庄野小太郎、高俣村高村敏輔、紫福村増野純亮の三氏なり第二日は更に奈古村大山彦五郎、福賀村中山桂市兩氏の欠席ありて出席議員は二十五名なりとす

大正十一年七月廿四日印刷
大正十一年七月廿五日發行
發行所 山縣阿武郡役所
山縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷
印刷所 萩 馨 海 館

▼附議事項

- 議案第壹號 大正十一年度山口縣阿武郡歳入歳出追加更正豫算書
- 議案第貳號 大正十一年度山口縣阿武郡積立金歳入歳出追加更正豫算書
- 議案第參號 大正十一年度山口縣萩高等女學校基金歳入歳出追加更正豫算書
- 議案第四號 大正十一年度山口縣萩高等女學校体育獎勵資金歳入歳出追加更正豫算書
- 議案第五號 山口縣阿武郡積立金繰入處分の件
- 議案第六號 山口縣萩高等女學校基金繰入處分の件
- 議案第七號 山口縣萩高等女學校体育獎勵資金處分の件
- 議案第八號 郡有財産處分の件

▼議決状況

第一日 に於ては第一號乃至第七號に至る各號議案に就ては全會一致原案を可決し進んで第八號議案を附議するに先ち一時休憩を宣し協議會を開きて郡有財産の産た造林處分案に對し相互隔意なき意見の交換を爲すこととせり本案は郡制廢止に伴ふ財産處分中の主要問題として注目せられたるだけ最も緊張味を以て研究討議したるも議了

するに至らずして散會せり
 第二日 前日未了に屬する第八號議案は一部更正を加へ更に提案審議の結果滿場一致を以て原案を認め茲に議案全部を議了したる後萩町長より提出に係はる萩圖書館移管に關する建議をも採用することに決定して開會せり當日提出したる郡有財産處分案の内容左の如し

議案第八號

郡有財産處分の件

本郡有財産たる地上權及造林は左記方法に依り之處分するものとす

大正十一年七月二十日提出

山口縣阿武郡長岡村勇二

記

一、郡有造林地

- イ、阿武郡嘉年村大字嘉年下字隱シホ第壹貳四八番參 山林
- 同 字隱シホ第壹貳四八番の四 山林
- 同 字牝瀧山第壹貳四八番の五 山林
- 同 字牝瀧山第壹貳四八番の六 山林
- 同 字地福峠第壹貳四八番の七 山林

二、處分方法

- 1、嘉年村に於ける地上權及造林處分方法
- イ、嘉年村に於ける地上權及造林は郡内萩町外二十六箇町村に無償讓渡し之を共有財産となし町村組合を設けて管理經營せしむるものとす
- ロ、共有財産たる地上權及造林に對する各町村の持分は該造林着手以來の郡費分賦額に

- 同 字牝瀧山第壹貳四八番の八 山林
- 同 字地福峠山第壹貳貳貳貳番の四山林
- 同 字地福峠山第壹貳貳貳貳番の貳 山林
- 同 字地福峠山第參第壹貳貳貳番の參 山林

- 右實測面積六拾壹町五段五畝歩
- イ、阿武郡彌富村大字鈴野川字向山第參貳〇番の貳 山林
- 右實測面積參拾九町九段壹畝貳拾歩
- ハ、阿武郡大井村字大浴第六壹八番の四 山林
- 右實測面積五町六反六畝貳拾歩

(別表)

地上權及造林各町村持分表

町村名	持分
萩町	千分の百六十
椿東村	六拾四
椿東村	貳拾八
山田村	參拾貳

- 依り別表の通り之を定むるものとす
- ハ、將來共有財産たる造林より生ずる収益は持分に應じて各町村に之を分收し町村基本財産に編入するものとす
- 2、彌富村大井村に於ける地上權及造林に對する處分方法
- イ、彌富村大井村に於ける地上權及造林は造林地域狭小のものに付郡に於て賣却處分し其の代金は之を一般會計に繰入れ使用するものとす
- 三、地上權設定に就き土地所有者と爲したる郡に關する契約事項は讓受者に於て之を承繼するものとす

小	彌	須	福	宇	奈	大	紫	福	吉	高	嘉	德	地	生	篠	川	佐	明	三
川	富	佐	賀	田	古	井	福	川	部	侯	年	佐	福	雲	生	上	々	木	見
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四	貳	四	貳	拾	參	貳	參	四	參	貳	貳	六	參	四	貳	參	貳	貳	貳
拾	拾	拾	拾	九	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾	拾
五	五	參	九	九	五	六	六	八	參	六	五	六	貳	七	貳	拾	八	五	參

見	六	田
島	島	萬
村	村	崎
同	同	村
同	同	同
拾	八	參
		拾
		五

庶務

町村長集會

七月十八日郡内町村長集會を郡會議事堂に開催し當日郡長より指示したる事項其の他左の如し

指示事項

- 一、實業補習學校施設要項改正に關する件
本件に關しては本年五月縣訓令第十七號改正の趣旨に遵ひ夫々配慮せられつゝあることゝ信すれども此際左記各項に就ては特に盡力せられ改正の實を擧げられんことを望む
- 1、生徒學齡簿を整理し就學出席の完全を期すること
- 2、實業科專任教員を設置して實業科教授の徹底を期すること
- 3、晝間教授制を實施すること
- 4、商議員の人選に注意し十分其の職能を發揮せしむ

ること

二、納稅事務に關する件

漸次良好なる成績を擧げつゝありし本郡内の納稅事務は昨年末に於ける實情に鑑み動もすれば之れが馳緩を來さんとするの傾向あるを遺憾とし年頭に當り切に注意を促せし所なり然るに曩に發布せられたる戸數割規則の實施に伴ひ町村稅の賦課徵收上に及ぼす影響亦尠からざるべく其結果之に由りて滞納者の多からんことを虞る各位宜しく此際特に事前の措置を嚴密にし本郡納稅事務の向上に一段の力を加へられんことを望む

三、傳染病豫防に關する件

本郡内に於ける傳染病發生狀況は各位の措置宜しきを得たりと一面一般衛生思想の發達とに依り別表示す如く年を遂ふて漸次其の數を減少し著しく改善の蹟を認むるに至りたるは寔に同慶に堪へざる所なり然れども一度病毒の傳播を逞ふせんか災禍亦大なるものあるは其の例尠しとせざるのみならず今や傳染病流行期に際會せるを以て不斷注意を怠らす最善なる方法を講じて豫防上遺憾なきを期せんことを望む

四、稻作改善に關する件

稻作改善に關しては各位の指導獎勵と營業者の奮起と

により大に面目を改め就中苗代薄時告諭の趣旨概ね徹底したるは欣快に堪へざるところなりとす而して本年稻作成績の消長は將來の施設に重大なる關係を有するを以て第二期螟虫驅除即ち葉鞘變色莖の切取に就ては特に意を拂ひ大要左記の方法に依り之か徹底を期せられたし

イ、切取時期は八月下旬乃至九月下旬なるも地方に依り多少の相違あるを以て其の時期は郡に於て調査の上通知すへし
ロ、驅除の方法は一、個人驅除を奨励すること二、期日を定め町村内全部に亘り一齊驅除を行はしむること
ハ、切取りたる變色莖は之を礎にて打つか或は火力等に依り幼虫を殺滅せしむること

協議事項

- 一、郡有造林讓渡に關する件
本件は左の通協議決定せり
- 記
一、郡有造林は其の地上權を町村の共有と爲す但し彌富村及大井村所在の造林は之を省く
- 二、讓渡をなし町村共有となしたる上は之が管理事務を處理する爲町村制第二百二十九條第一項に依り町村

組合を設けて造林經營を爲すものとす
 三、將來造林より生ずる收益は各町村の持分に應じて之を分收し其の金額は之を町村基本財産に編入するものとす

四、郡有造林を町村に譲渡處分に對しては七月二十日臨時郡會を開きて之か議決を求むるものとす

五、町村長は郡會決議の結果に依り七月二十七日迄に町村會を招集して左記事項を附議し議決の顛末を直に郡長に報告すること

イ、左記郡有造林の地上權を郡内町村に譲受けを共有となすこと

- 一、阿武郡嘉年村大字嘉年下
 - 字隠しは第壹貳四八ノ三 山林
 - 字隠しは第壹貳四八ノ四 山林
 - 字牝瀧山第壹貳四八ノ五 山林
 - 字牝瀧山第壹貳四八ノ六 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ七 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ八 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ九 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ十 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ十一 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ十二 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ十三 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ十四 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ十五 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ十六 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ十七 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ十八 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ十九 山林
 - 字地福峠山第壹貳四八ノ二十 山林

右 臺帳面積五拾五町八反六畝貳拾步

實測面積六拾壹町五反五畝步

二、阿武郡彌富村大字鈴野川

字向山第三二〇番ノ二 山林

右實測面積參拾九町九反壹畝貳拾步

地上權存續期間

大正三年十月一日より向ふ五十九ヶ年(大正五十七年九月三十日まで)

ハ、利益分收方法

彌富村 四、六九八

計 一四、九一四

リ、將來に於ける見込價額

嘉年村 一、〇一〇、一〇〇圓

彌富村 四一七、〇〇〇

計 一、四二七、一〇〇

備考

本計算は大正五十三年度より向フ八ヶ年間ノ主伐及間伐收入ノ合計ナリ

一、滿鮮視察に關する件

來る九、十月の候に於て郡内町村長と共に在滿鮮龍山

平壤、旅順の諸隊本郡出身在營者の慰問を兼ね滿鮮の共同視察をも遂行することに決定せり而して右に適當なる期日は在旅順久保田驛長より通知せらるゝ筈なり

▼口頭注意事項

- 一、山口縣自治事務講習所入所生豫選の件
- 二、水防準備に關する件
- 三、共進會品評會開設に關する件
- 四、山口縣商品陳列所及萩商品館出品勸誘の件

□郡制實施以來郡費町村分賦額

明治三十二年度より大正十一年度に至る阿武郡費町村分賦總額は四拾六萬五千參百四拾八圓四拾貳錢五厘にして分賦一ヶ年平均は壹萬千參百九拾圓を示せり而して分賦總額に對する最高額は萩町の六萬八千八百五拾七圓にして其の最低額は六島村の參千五百八圓と尙之か町村別分賦額及千分比を掲ぐれば左表の如くにして郡内一ヶ町村平均分賦額は壹萬七千貳百貳拾五圓なり

阿武郡町村分賦額

町	村	分賦額	千分比
萩	東	六八、八五七	一四八
椿	東	二八、八九四	六〇

椿 山 三 明 佐 川 篠 生 地 德 嘉 高 吉 福 紫 大 奈 宇 須

田 見 木 並 上 生 雲 福 佐 年 侯 部 川 福 井 古 郷 賀 佐

一三、六六七
一五、〇五一
一〇、六五一
一一、七四〇
一三、二一〇
一三、二〇八
一〇、三九四
一一、四四二
一五、五六三
三一、七六三
一一、三五三
一一、九四七
一五、八五七
二二、五一九
一七、九四六
一一、五六六
一五、八六六
八、七一二
一四、四二六
一九、七八二

二九
三二
二五
二九
二八
二二
四六
三四
六八
二七
二八
三四
四九
三九
二七
三四
一九
三一
三四

見島	六島	田萬	小川	彌富	計
四六五、三四八	四、七二二	三、五〇八	一六、五七一	一一、八〇八	二五
一〇	八	三六	四六	二五	

阿武郡名譽職參事會員補缺當選

本郡紫福村選出郡參事會員増野純亮氏は今回家事上の都合に依り辭職を申出てたる結果後任は左の通決定せり

就職	月日	村名	氏名
大正十一年六月二十八日		福賀村	中山桂市

四、五月分町村税納税狀況

▲四月分

本月中に賦課したる町村税は地租、鑛業税、國稅營業税、縣稅營業税、縣稅雜種稅の各附加税にして滯納者總數四十五人其内譯左の如し

萩東	椿上	川生	篠雲	生福	地福	德佐	紫福	須佐	彌富	小川	田萬	計
一五	一	二	二	二	二	二	二	三	二	五	二四	一
六五	一四	八	二	二	二	二	二	三	二	二	二	一一三
八〇	一六	二	八	二	二	二	二	三	二	一七	二	一三八

德佐村歌

一、治まる御代に阿武の川
清き流れのみなかみの
山ふところにいだかれて
榮ゆく里は德佐村
二、雲に聳ゆる德佐か峯
高く雄々しき御姿を

四月分町村税滯納者

町村	地租附加税	鑛業附加税	國稅營業附加税	縣稅營業附加税	縣稅雜種附加税	計
小川	二	一	一	一	一	五
福川	二	一	一	一	一	五
德佐	一	一	一	一	一	四
地福	一	一	一	一	一	四
椿東	一	一	一	一	一	四
計	二八	二	二	二	二	三五

▲五月分

本月中に賦課したる町村税は所得稅、縣稅營業税、及縣稅雜種稅の各附加税を來し就中萩町のみにて八十八人を出せり

五月分町村税滯納者

町村	所得稅附加税	縣營業附加税	縣稅營業附加税	縣稅雜種附加税	計
小川	二	一	一	一	五
福川	二	一	一	一	五
德佐	一	一	一	一	四
地福	一	一	一	一	四
椿東	一	一	一	一	四
計	八	四	四	四	二〇

- 一、里の守りの神として
- 二、朝夕仰く五千人
- 三、三千町歩の山林の遊ひ樂しむ禽鳥も
- 四、八百町千町の稻田には豊かに湛ふる黄金の波
- 五、春は櫻の花の色
- 六、見よや村人この村の自然は吾等の鑑なり

山河自然の樂園は
德佐の村の美德なり
自然は吾等の鑑なり
清きを學べこの河に

學 事

第二回阿武郡女教員大會 (其ノ一)

期日 大正十一年五月十六、七日
會場 明倫尋常高等小學校

第一日

▼午前の部

- 一、開會式……………(八時三十分—十時〇分)
- 二、實地授業……………(十時〇分—十一時十分)
學年 尋常科第六學年
學科 讀方科(北風號の一節)
教授者 明倫小學校訓導 村上賢一
- 三、實地授業批評……………(十一時〇分—十二時〇分)
會員中二三の質問者あり來賓野北中佐の短評島田主事の講評ありたり
- ▼午後の部
- 四、中谷視學官の講話……………(一時—二時)
- 五、會員意見發表……………(二時—三時)
- 全國教育大會狀況 明倫 一來 テル

- 強く生きませう 樺東 香川喜代子
- 家事科教授に就て 椿西 白井 チカ
- 人となりて 白水 佐竹千代子
- 天職に目醒めよ 下小川 井上 白子
- 裁縫科教材取扱に就て佐々並 國弘 松子
- 教育上の所感 大井 小田ユウ子
- 所感 奈古 澄川 アイ
- 家事裁縫の教授に就て 小川 尾坂喜與子
- 視察談 多磨 三浦 アサ

六、教育問題の研究……………(三時—四時)
問題 教育振興上女教員の活動方面如何

▼夜會(第一日午後七時—十一時)

- 一、獨唱 しのり、雀の學校 中村ハナコ
- 二、獨唱 雪の夜 河野 千世
- 三、合唱 雨の曲、夕日 椿東校女教員
- 四、獨唱 夕の鐘 杉山登志子
- 五、表情遊戯 明倫女教員
- 六、獨唱 埴生の宿 郡司ハナ子
- 七、獨唱 十五夜お月さん 田中としこ

第二日

▼午前の部

- 一、教育問題の研究……………(八時—九時)
問題 女教員の活動能率を向上せしむる方法如何
- 二、兒童服及女教員服の研究……………(九時—十時)
兒童服は昨年來の懸案にして今回委員の研究せるものを適當と認めたり
- 女教員服は左記委員により各自研究を遂げ本夏夏季講習會の序に委員集會して意見を取纏め郡長に報告することとせり

女教員服研究委員(各部一名宛選出)

三谷校 内田 ツヤ

- 八、合唱 開かぬ扉 中村ハナ子
- 九、獨唱 牧笛 杉山登志子
- 一〇、童謡 鳥の手紙、青い眼の人形 郡司ハナ子
- 荒木タケ子
- 河野 千世
- 福壽 キミ
- 明倫校女教員
- 全
- 一一、表遊 靴が鳴る
- 一二、合唱
- 一三、茶話會 餘興に「雷さん」あり一全興す

- 三、熊野縣視學講話……………(十時—十一時半)
- ▼午後の部
- 四、島田附屬小學校主事講話(一時—二時半)
- 五、閉會式……………(二時半—三時半)

吾人女教員は益々鞏固ある信念と覺悟とを持し今後兒童教育の實際上に社會教育の振興上に乃至個人生活の改善上に十分なる努力を加ふると共に進んで幾多の研究調査物を作製し次回女教員大會に之を持寄りて女教員研究調査物展覽會を開き本郡教育振興に資せんことを期す
大正十一年六月十七日

講演

□時勢に應ずる女教員生活

島田本縣師範學校附屬小學校主事

丁度昨年の五月女教員大會の第一回が開かれた際にか
邪魔をして「女教員の使命」と題して所感を述べたのであ
る。その時申したことは、今日原稿をもつて参つては
ますが固より全部覚めてゐて戴きたいのですが今日は異
つた話をして見たいと思ふ。併しながら先日まで教育研
究大會があつて非常に疲勞してゐるし健康を失してゐる
上に、當地へきてから又腹を痛めて元氣がないのであり
ます。従つて徹底したことを申上げることが出来ないが
折角参つたから自己の力の足らん点は申譯をいけれども
何か印象を一つ二つ残して歸りたいと思ふ。

第一回に於て中間動物がいはぬくらぬ店へ運ぶ足を
移して本屋の前へ止めよ。女教員内で女誰れとか色んな
人の批評をすることを止める、とか言つたやうなことは
まだ御記憶してゐらるゝことと思ふ。時勢に應ずる女教
員生活と題するけれども、時勢に應ずる私の感想を露骨
に申して見たいと思ふ、ついで口が出てこゝまでゆくまい
と思ふことも熱しすぎると言ひ過ぎるのであるからあな
方に御無禮の言葉があつても、唯だ熱したあまりと思つ
て許して貰ひたい。私は憎まれることは嫌ひであるから

好意をもつてきて戴きたい。唯だ話をしてゆくのみで
も印象が残りぬと思つて、私の話さうと思ふ要項を刷つ
て貰つたのであります。奇麗に刷つて貰つたのであるが
その内容は立派ではない。

先づ最初に女教員問題の起因と其の現状といふのであ
りますが、昨日視學官殿の話にあつたやうに、女教員問
題がやかましくなつてゐるが、女教員の能率向上につい
ては本縣は甚だ努めてゐる私は本縣へ來てから滿二ヶ年
になんなんとしてゐるが本縣へ來た第一印象として本縣
の女教員は力が足らないといふことを視學官に申上げた
或は第二人者ではないかと思ふ。さういふことを言つた
責任上、皆さんの努力によつてそれを立派に裏切つて戴
くやうにしてありたいと思ふ。

今日は昨日よりも向上二歩を進めてゐるとは考へるが
余程澤山の方が奮起せられてゐることを知つてゐる、阿
武郡女教員會の力を山口縣第一にして貰ひたい、そのこ
とをなすものはあなた方自身である。汝をよく知るもの
は汝なりである、あなた方の力がなかつたらそれは出來
ないのである、此頃女教員に關する問題が多くなつた。そ
の起りは婦人問題をか、けてそれから波及した問題であ
るがそれは此處に申さないけれども、兎に角一台所の豚

高等女中に甘んじてゐた、過去の女が眼覺めて來て幾多
人間味を發揮したいといふ要求から、勃然として起つた
のである。社會の上から見ても、婦人の職業問題はゆる
かせにするものでない。教員全体の三分の一を占むる女
教員の能率が少なかつたならば、一國の向上は望まれぬ
女教員の奮起によらなければならぬといふ所から、女教
員各位の努力を要求するやうになつたと思ふ。女教員だ
けを除けてをいて男子側だけでは出來ないやうになつた
力を借らんければ出來ない。といふやうになつた。あな
た方の地位を認められたる時機に達したものとと思ふ。寔
に慶賀に堪へぬ併しむがら女教員の必要が確成しだる今
日に於て、なほ残るものは、女教員の能率の男教員に比
較してその方が弱い低い、といつたやうなことを申すの
である。その点が今日女教員の方が努められなければな
らぬ問題である。

然らば、能率が男子の教員より低くないといふにはご
うすればいいか、どうして挙げればいいか。といふこと
を短刀直入研究して行けばいいと思ふ。さういふ意味を
以つて話をすゝめてゆきたい、さちらが成績が良いか悪
いかは澤山研究されたものがある。彼の婦人を尊重する
所のアメリカでは、申すまでもなく80%の女子を先生に

使つてゐる若し女教員の能率が低いものならばアメリカ
の教育は能率が低くなければならぬ。然るにそれは低
くない。それは何故であらうか。イメコンデン大學のス
ターチ博士は性の問題でなく人の問題であると言つた。
人と人との力の差である併しながら如何、米國の女教員
が能率が高いといつてもそれを移して直に日本に適用す
ることは出來ぬ。一英國は女子の方が能率が少い。獨逸
もさうである。一之を我國に見ても長野縣は女教員を排
斥してゐる、國の内外を問はず、非常に大事に認める一
方には、力が足らんからと言つて除ける人もある。然ら
ば如何にすれば非難を受けなくてすむか。自覺を與へて
奮奮せしむる方法を考へてゐる人々もある。私はその後
の場合をとりたいたいと思ふ。女子が職業を執るならば教員
生活は極めてよいと思ふ。その故に於て將來は男女の教
育數が半々位になる時期は遠からざるものと思ふ。澤柳
博士のやつてゐるいかにして能率を發揮せしむるかとい
ふことを考へて行つてそれを應ずる方法を考へて行く、
一方には自奮自勵を待つといふ風にならなければならぬ
と思ふ。あなた方の告白にある如くであるが、男教員に
劣つてゐるのではないが社會事情の色々が力を伸ばさし
めないやうにしてゐる事實が多くあるのである。

アメリカの如きは社會狀態が充實してゐる、完備してゐる。我々は西洋人は如何に贅澤に生活してゐるかと思へてゐるがさうではない。労働者は朝起きがけにガスのチヤを捻ぢて湯を沸かし、パンを嚙りコーヒを飲んで出て行くのである。決して婦人がわざ／＼起きてする必要がない、男は女より先へ起きて不便でないやうな状態である。家庭でするより以上經濟な洋服屋がある、洗濯屋もさうである衣食住の設備が十分整つてゐる、消子の掃除も共同で入夫がする唯だ僅かの部屋を掃除する位が婦人の仕事である日本のやうに、勢力を費してゐては、食事の世話子供の世話―散歩に出るやうなことは到底ゆるされぬ。其の間に子供の看護、病人があればそれに關する看護老人の勞はり等をかよひ女手に引受けてやらなければならぬ、事情にあるのであるゆへ進むべき餘裕がないのである。その点を先づ改良してがなければいけないのである。女とは高等女中と言つたやうに傳統的な考をもつた男子が女子に對して屈辱的な点にある今日、一方、識者が改良をなさずしては女子は伸びてゆく道がないのである。男子も女子に對する了解を拂ひ事理を明白にして、共に人間として生活内容を複雑にせずして、余力を作るやうにしなければならぬと思ふその点に於て生

活改善は必要であると考へる。

だが、こゝに日本の女教員の能率の低い点の一つある男子と共に教育を受けさせたいと思ふけれども、女子の爲には教育機關が不十分である。中學校に拂ふやうな凡てのものを、女學校に國家は之を提供してゐない。女子の學校としての弱みをもつてゐる。故に修養に關しても女子が伸びるやうに提供せられなければならぬと思ふ。門戸開放―女子も男子と同じくとも修養してゆくことが必要である。大學は女子のために門戸を開放してゐる所もあるが―本縣の女教員の方を見ても努力の点に於ては他縣に勝つてゐるかも知れないと思ふが、根本的修養の深みに於いて劣つてゐるもの分量の方が多し、全体として劣つてゐるのである。故に質をよくしてゆくためには十分なる機關を提供してゆきたいと思ふ。修養の機關が備はつても時機時間が提供せられなければならぬと思ふ。出來得るだけ生活内容を簡單にして女子の爲に修養の時間をとつてゆかなければならぬ

スペンサーは「女子は婦人としての責務を果さんが爲にその發達を速く停止する」といつてゐるが、あなた方はその運命を持つてゐるかも知れぬがその時機の來るまでは自己を十分に修養するだけの期間時間を與へられて

なければならぬと思ふ。同情の位置から眺むれば家の生活學校の生活、二つの道の事に疲れられる―非常に疲勞されることと思ふ。家庭生活教員生活はその餘力で他が出来るものではない。さうして一をすれば他がぬける。或時は學校の爲に必死にならうと思ふ。がその時にどこに自分の子を他所にして人生があらうかといふ事を考へる。物質上の待遇を得て教員生活が何物ぞといふやうな問題のあつたことを推測するのである。さういふ具合に朝は早く起き、夕は遅く歸つて一方には學校の愛子を思ひ一方には家庭の親、夫、子供に對する責任を思ふ。密に私は苦心慘境たる女教員生活に同情するものである。それとともに一面には女子の修めらるゝ學課は時間要するものである。一枚の紙をどつてもその中の真理を考へる。一の問題を解決するために考へるには時間がかかる。自己が修養上と思へば範圍のひろいことを研究しなければならぬ。比較的長時間を要する家事、裁縫といふものの學科を女子の仕事として受けもつてゐるゝことは全体の能率を上げる上に差し支へるものではあるまいかと考ふ。ほんどうの告白をするならば活動能率を高める上に於てあなた方は椽の下の方力持ちである、効があらはれない。かくれて苦勞をしてゐるけれどもその

点を了解して呉れるものあなた方の上に立つてゐないといふことを慨嘆せらるゝ方の少くないことを私は思ふ刺戟のない所には努力がない。もつと私はあなた方が刺戟のある位置に自己を置くやうにしなければならぬまた宜しく刺戟を與へて、明瞭に自己の存在を認めらるゝやうにならなければならぬと思ふ。併しながらさういふ風に他に對する方面から同情するけれどもあなた方の本心に立ち歸つて見て私はもつと皮肉な感想をして見たいと思ふのである

それはあなた方の生活は腰掛け的生活ではないかと思ふ。私は一生女教員をもつてやり通さうとする人は少いと思ふ。職を轉せんとして煩悶する男教員も多しである。教育の爲に悪心たしかふ信念の強い人は少くなつたと思ふ。されど男教員が自己の職業のために討死しやうといふ人はまだ多いが女子には少い。唯だ嫁入前の金儲け―家に居つても足手纏ひだから、やつて見ようか悪ければやめてやれといふ風にしてゐて、どうして成績能率を擧げることが出來ようかどうして私は女教員の能率を發揮しない有力なる原因がその邊に有りはせんかといふことを考へるのである。併し人間は明日のことは分らぬ否、一時間、一分間前のごことが分らぬ―どうな

つてゆくか分らぬ。だからあなた方は教員たるの資格を
 とも辭命をとつたら運命にくまりつけられたと思ふ必要
 はない。他の方面にすゝむ人が出来てよい、が明日止め
 てもやめるまで職を奉してつとめてゐる間は腰掛的の淺
 間しい考を止めたいと思ふ。何時止めるか何時どうなる
 かといふことを考へる際には煩悶する、胸を痛める。ひ
 そかに涙をしぼることもあるだらう。されど少くともそ
 の勤めてゐる間は、不忠實なことはいない。本氣でやる
 才が廻らなくつとも経験に乏しくともそこに自己自身の
 満足を見出すことが出来ると思ふ。兎に角やる間は互
 ひにやらうではないか。俸給の高地位も何物ぞ！忠實な
 る人こそ何物にもかへられぬ立派なる人と思ふ。實の入
 つた所の本氣の生活が出来ると思ふ。そんな不忠實な態
 度で従事してゐるもの、まじめにやらないものは宜しく
 教育界から脱脚すべしだと思ふ。本氣でやるもののみ残
 つた方かいと思ふ。それでなければ上らぬ。熊野縣視
 學の話と共鳴する。私はその意味で人を見たいと思ふ。
 何處に勢力を表してゐるが、醉生夢死—その日ぐらしの
 出まかせの生活を私はとりたくない。と考へる併しなが
 らさう申しても性的の根本差違からの問題はあつたがそれ
 は一々申上げることがはさげたいと思ふ。

私はこゝにかういふ、問題を提供したいやることその
 ものに興味を求めなければならぬ、興味を持つといふこ
 とについても今やる生活其のものに興味をもつてゐるこ
 と理解があることが必要である。その点を反省して貰ひ
 たいと思ふ。女教員たることをほこりとしてゐるものも
 あるが又一種の卑屈を感じてゐるものが少くないのであ
 る。果してあなた方は旅行して宿帳に何となくか。嘗つ
 て私が廣島にゐたとき、地方から来た澤山の參觀者を迎
 へたことがあつたがその時の経験をみると停車場で下り
 たときは奇麗な着物を着て大きな帯を結んで、派手な
 ランセルをさしてゐた人が翌日はひそかに應接室の一隅に
 袴を穿いて來てゐるのである。人を教育する教員者たる
 所に何處に恥かしみがあるかどこに遜色があるか。女子
 のみを責めるんではない、男子でもさうだ女中が宿帳を
 もつて來る。小學校教員とかく人はない「どうた何とみ
 たやうに見ゆるか旦那銀行家とすよ」或は「實業家です
 か」などいへば喜んでゐる。「小學校の先生なんぞせう」
 といふと機嫌がわるい。又よほどかはつたのは小學校教
 員であつて、無職とかくのがある。それでさうして實の
 入つた仕事が出来ようか。互互に教育者の生活—教育
 者であることを誇りたいと思ふ。種々な社會の人が女教

員といへば何々だらうと考へたものであるが、さういふ
 人には昨夕の餘興ではないが目かくしをさせたいと思ふ
 王侯貴紳と雖も、先生の前には敬意を拂ひさせたいと思
 ふ。自然にさういふ風になるまでまつか、或はね互が自
 らその所へもつてゆくかその職業に惚れてゆきたいと思
 ふのである。藝娼妓といふものは或は人前で自己の職業
 を云ふことを耻づといふことはあるかも知れぬが女教員
 といふ仕事はそれだけ高潔なる仕事であるかといふこと
 には卑屈な考を捨て、ゆかなければならぬ。
 次は自己の責務に對する無自覺—さうして自己の職業
 に對して冷酷な感か起らう自己の受けもつ児童は切り離
 して考へれば一軒一軒の寶子であるその子供を—失禮な
 話であるが—自己の家にとつてはかけかへのない子供を
 あなた方に提供して安心してゐる、親の姿を浮べたとき
 にその捧じてゐる仕事に對して何等の愛着心もなくしてよ
 いものであらうか。數名の家族がその子供の蔭にかくれ
 てゐることを認めたときに、そのものの背後にある責任
 を委託されてゐる信頼されてゐることについて感激しな
 いものがあらうか靜かに反省熱慮をして戴きたいと思ふ
 そこに大なる力が出るのである。女教員生活の煩悶を數ヶ條こ

さへたが女らしく生きたいことと女教員生活の矛盾を
 挙げたかと思ふが—指についた紅いチョークの色にも何
 だか女教員の誇りを傷つけられたかのやうに思ひ、又連
 動場に於ける自己の姿を考へて何だか侮辱されたやうに
 思ふ方がないかといふことを申上げたが、さういふ考に
 充ちたものは、かういふ仕事には合はないのである。—
 初夏のソラの色云々の歌を擧げて感想を述べましたが—
 女子の本質的生活との矛盾—家庭の生活の上に於て女
 教員の生活の上に於て矛盾ありはせぬか。それ等が一
 所になつて自己の職業に愛着がないのではないか、と。
 思ふ私は女教員心理といふものを考へて見てそんなもの
 ではないかと思ふのであるが、若しそんなものでないと思
 へば、一層光明ある自己を見出して戴きたいと思ふ
 視學官がいはれたやうに學校教育は家庭教育の延長であ
 る女子、生れて既に教育者の天性をもつてゐるから適當
 のものであるといふ話であつたが眞にさうであるのであ
 るとて教育は女子の天性が最も之にふさわしいのであると
 いふことは明瞭なものである。決して虚偽矛盾はないと
 思ふ。人を愛し育て、ゆくことは天性であるその天性を
 發揮することはいふと思ふ。決して女として生くる道と
 女教員としての道とに矛盾はない、女性の天職を傷つけ

るものではないのである。

信頼と敬慕—あなた方の生活には光明がある。「だつて先生が……。」といふ言葉の前には親の言葉も學者の權威もないのである。それ程の信頼を囑されてゐる自己と思へば非常に愛着心があるのである。先刻申したやうに六十の子供には百二十の親がついてたり又國家社會がいかにも要求してゐるかといふことを自覺したならば非常に光明ある生活にはいると思ふ。凡て愛でなくてはならぬ。子供の爲を圖つてやる者が湧いて來るのである。批評會の席上で申したやうに子供の手を握り子供の手を執つて喜ぶやうに思つてゐるその間に光りがある、社會的地位も俸給も忘れて喜びにはいてゐるやうなものでなければならぬと思ふ。その反對には理窟は知つており研究はしてゐても、その成績は何等あげてゐない、さういふ風に實行の伴はない、理窟倒れの教育にあつてゐると思ふ。一日の煩悶も一日の生活も皆んな子供故に忘れらるゝやうになりたいと思ふ、我々互の事は學校に行つて忘れたいと思ふ。私のよく知れる豊浦郡の一女教員の方が信仰に充ちた人でありよく歌などをもつて感想を色々と述べてくれてゐるが—その先生が非常にレウマチを煩つてゐて身体が悪い、それで私の言ふことを入

れて別府へ行かれて養生されてゐるがその方の手紙のうち「自分一人が湯に浸つて安かになつてゐるときにかぶのは、自己の教へ子の六十三人の面務である。眠る際に思ひ出すのは夏休み前に分れた自己の児童だ」と言つておられる。その先生の前には私共のすゝめも却つて自己のれもひを燃やす煩悶苦勞の種だつたのである。児童を教へるために立つたときこそ真に愉快である。

伊太利ホルク原著三浦氏譯の「愛の學校」に讀み耽つたことがある、余程有名な本である、年老いた先生が壇上に足を運んでゐる。今はひとりになつて頼るものは誰もない。壇上に立つた先生の睫毛を傳ふ涙を見るときに児童自身は堪へられなくなつて先生に抱きつく、「皆さん私はあなた方がたよらだ。あなた方と共に泣かう、あなた方とともに笑はうこれから先の生活はない」と言つて涙を流した。初めて來られたときの先生が老人であると言つて馬鹿にして居た児童は感に打たれてその罪をあやまつた。先生は唯だ「大きくなれ、大きくなれ。」といつて筆が結んでゐる。

先生がどんな先生でも、信念の問題であると思ふ。私は卒業する所の男子の生徒で卒業式の日、食堂で晝餐會のあつたときに感極まつて話した話がある。それは廣島

縣の視學員をしてゐた際に認められた一教員であるがその先生は五十位の人があり非常に熱心なる教育者であつた流行政感胃が猖獗を極めた際、先生も病氣につかれた、受持の高等の一年生はどんなことがあつても先生の平癒を祈らなければならぬと言つて八幡様に祈りをした。厳しい寒さの夜明方、はだし詣りを凡ての者がした。それ程でがれてゐる生徒の父兄も亦はだし詣りが初まつた嘗つて教をうけた五年四年の中學生も皆結束してその老先生のために神に祈りを捧げたといふ事實を發見したのである。ほんとにこの混沌とした浮薄な時代に、信念の燃ゆるやうな熱をもつてゐる。余程愉快を感じたのである。この心掛一があれば到る處成功するのであるそれを離れて生活することは虚偽だといふ話をしたことがあるがなほこの考へは永久にかはらないと思ふ。我々のやつてゐる仕事はまことに愉快なものだと思ふ、父兄側が自己を敬慕してゐるその際に自己の生活と心中してもいと思ふはんどうに愉快に思ふ、されど児童の教育に屬してたりながら校長の生活を考へてゐるならなさい、事務的方面に催促として唯だれ形式的に訓話をやつてゐる、運動場で一所に遊んで児童の背肩をたゞいてやる暇もない僅かに補欠代用として時間塞ぎに教場に行く位で何處に

愉快があらうか、一學級主任として自己を頼つて來る一學級の訓導—それ程愉快なことはないと思ふいくらか教育の生活から離れて事務に催促せなければならんやうではないかと思ふ。宜しく音義ある生活に光明を認めて參りたいと思ふ。私は澄川さんの話を聞いて思はず涙を流したものの一人であつてさういふ信念のある、人は幸福であるその人はなす仕事に光明がある、どうかそこらに考を占めて歡喜の生活をして戴きたい。

自己の報酬—自分の力で児童が伸びて行き賢くなつたことを考へればそれか自分の力の報酬であるそのことを知るならば甚だ我々は愉快ではないか。一人人が言つた私どもは児童を教へさせて貰つて我々は金に換えられた精神的の慰藉を受けてゐる上に金で戴くのはもつたいないことである、私はそれをさいて感激したのである。我々は精神的にも物質的にもそれに對する報酬があるのである。

私も學級主任として苦勞した經驗をもつてゐるので児童のために苦勞した一人である廣島の或る橋の上に立つてひとり半夜を泣きすさしたことは度々あつたさうすれば折角自己の受けもつた児童を人並以上に立てさせることが出来るか小さき私の面影をそこらに見出すことがど

れ程までに及ぶか、その及び方の少いことを考へた努めて見ても勵んで見ても自己の力の足らんことを嘆きどうかして立派なクラスを作りたいといふ苦心をしたことがある。私の前まで受けもつてゐた訓導は二人とも死んでしまつた。亂れに亂れた學級を佐藤主事が、君の力で之を物にして見よ、といはれたときには非常に責任を感じたのである。子供の爲を思つては或はなぐりもしたです。その子供は今日はいふ。その子供は今大きくなつてゐる。自分の影がその子供に移つたやうでうれしく思ふ卒業の日保護者の手にその子供を引きわたすときは、一の愛着を感じたのである。その時私の最も大なる精神的慰藉を興へて呉れたのは、主事の保護者に對する挨拶であつた。「あの時は色々御心配をかけたが島田君のお蔭で、あなた方もさぞ御安心でせう。」といはれたときには私は數千金の報酬を得たのであつた。あなた方の姿が子供にうつつてそれが子供にしみわたつたならば千萬圓にもかへられぬのである。あなた方の生活は緊張せるものである、道徳的な倫理的な非難することのない道である。どうかその精神をもつて自覺して貰ひたい。

その力を助けるためには第七番目にかきました。學校長管理監督者であります、あなた方から要求すべきものである。

である。どういふ点かといへば職業問題の理解である。極めて高潔な職業であるといふことを社會がみとめるやうになれば喜んでその職につくことが出来ると思ふ。精神的の慰みに満足されるがらうと思ふ。よく女教員を愛し女教員に精神的の慰安を與へ同情を表して貰はなければならぬものは校長である。かかる校長の蔭にゐるならば、あなた方の千萬の味方である又同僚の職員、男教員女教員相互の間にも安らかに生活してゆき、伸ぶべき道をすゝめてゆきたいと思ふ。「女子と小人は度し難し。」といふやうにもし内幕同志にすればその交際があつたらばとても愉快な生活は出来ないものである。相互の間に理解と同情をもつてゆくことが必要だ。かくて世間からは同情が加はり兒童からは報酬がある、又正當の意味に於て物質的には慰藉を望まれるが、と思ふ。唯だ聲のみ大にしてその實力のないものはいけぬ。月給を上げてやりたいものはだまつてゐるが上げたくないものが上げて呉れと言つてゐる。顔には笑くばを出して、手には豆をどるならば、いつか認めらるゝときがあると思ふ。物質上の待遇に於ても男子とともにして能力を擧げることが出来るやうに思ふ。大いに力を伸ばさねばならぬ。

私的生活と公的生活とについて申し上げますならば第一の

印象は冷かである。冷たい教育が何處にもあるのであれを眺めてゐる自己が感じた。もつと情愛のこもつた深刻の血の通つたうちどけた教育でなくてはならぬと思ふ。ホルテオの言つたやうに凡ての理性をもつても尙及ばぬやうに女子は情愛の力が強いのである。からその空気を十分に教室に満して戴きたいと思ふ。女教員の教室へ入つたときの氣分の違つたことのないのを残念に思ふ。温みがない、子供の方が先生にすがつてゐるやうな情がない、もつと私は思ふ。教育のうちには知的の向上冷かなものもあるが教育そのものが數時間のどこかに情愛のやさしみに生きた教育でなくてはならぬと思ふのである。學校に母がゐる。お父さんに打ち明けられないことをお母さんに打明ける。男先生に言ひきれないことを女先生の袂にすがつて打ち明ける。人の母としての権威になつてほしい。

私的生活上の努力としては色々なことを荷へるけれども多くの説明はいらぬが内的にも外的にも充實せんければならぬあなた方はふくらまなければならぬ、換言すれば自身の修養何處かに多くの自己を宿して、以つて動かぬ所の觀念を持つておろかればならぬ。又外にも開かなければならぬといふのである。信仰に生きるもい、科

學に藝術に何でもいゝが、充實したる修養法をどらなければいけぬ。それでもいゝ内的の充實は出来ると思ふ。「懺悔の生活」を読んで見るがよい。

落付のある人生觀—お互に子供でいい。だからして無自覺な道をとりたくない。落付のある根據のあるもの。その日を送つてゆきたいと思ふ。向と一步の生活、自ら進みつゝあるものでなければ教育者の資格はない、私は常に言つてゐる。竹筒主義でなければならぬ。デューエーのいふ所の向上を執らなければならぬ。節を作つてゆくといふことである。今日の生活には今日の生活意義があつてはならぬ。我は今何となしつゝあるか、それが分つてゐなければならぬ。節をつくつてゆくことは何上一步の生活である。何かの仕事を目的にしてやつてゆきたい。研究に於てもさうで一の節が出来たい。服装問題之についても今回の研究の段落がついた、このまゝ崩れないやうに節を作らんと竹は弱くなるのである。

女らしき潤の發揮、親心をもつての接觸凡てこの心をもつて人に對してゆけばいい。随分申上げたこともありますが何だか出鱈目であるかも知れぬが前話したことも今回話したことを並べて見て多少やつぱり向上一步を作りつゝあると思ふ。この次には又節をつくりたいの

である
最後に結語として奇妙な言葉を用いた。「苦痛の喜悅。」
「永續の努力。」我々は苦しみが足りない苦しむことその
ものが喜悅である。今なすべきことに苦しみ悩んでゐる
それをとり去つてやらうかといはれたときにどうかこの
まゝにして置いて呉れといつた所、さうなつておればい
ゝんださうなくてはならぬのだといはれたとき私は満足
したのである。苦痛が喜悅であるもつと我々は苦しませ
せう。先生は安らかなものではない、悩みの中に喜びは
いくらも出る。もつと苦心しなければならぬ。悪口をい
ふやうなけれども二日間の大會に出ただけの苦しみの面
影を示さなければならぬ。子供を教へる以上はその日の
目的は何かどういふことを考へてゐるかといふことをつ
きとめたならば、あんなに精練されたものにはあるまい
と思ふ。もつと苦しみなさいもつと深く研究しなければ
ならぬ。それが堪らなく喜ばしいのである或人が榮轉を
望まれたときに應じなかつた。何故彼は行かなかつたか
私は今やかりかけてゐる仕事に忙しから行かない。苦し
むことが愉快で堪らないからそれをやりたいと言つた。
それに満足してゐるのである。さういふ風にして我々の
生活は意義を見出すであらうと思ふ。又熱し易く冷め易

いものではないかん。仕事の足元を作つてゆく。一貫した
向上一步の生活、過去、現在、將來の上に永續的の意味
に意義を感じるのである。我々は將來の女教員大會を作
ることに向上一步の努力をして見たいと考ふ。永續の努
力を惜まないならば何もあつたものではない。更に鍛鍊
苦心して向上してゆきたい。そして縣が向上し國家が向
上してゆかなければならぬと思ふ
段々興奮したので不論理の点もあつたと思ふが、急い
だのであるから、それも向上一步を進める点にあると思つ
て御許しを願ひたいと思ふのであります(岩武氏速記)

阿武郡教育會教科研究員派遣

- 遊戯音樂研究員派遣
- | | |
|--------|-------|
| 地福校訓導 | 鹽見與平登 |
| 生雲校訓導 | 阿川利一 |
| 高俣校訓導 | 増原武夫 |
| 吉部校訓導 | 和田忠良 |
| 椿車校訓導 | 山村秀一 |
| 明倫校訓導 | 一來テル |
| 佐々並校訓導 | 佐村 巖 |
| 川上校訓導 | 田中トシコ |

一、彌富校訓導 仁保 龜一
育英校訓導 吉屋 静子
福川校訓導 末永 猛
奈古校訓導 小野 了作
(以上十二名)

二、研究所 東京市元園町小學校
三期、日 自五月八日至五月二十六日

四、講師及講習科目
土川五郎先生
「律動及表情遊戯」
かいくり。おじぎ。機械。月。水兵。風。
兵隊遊。おいてさほり。飛行機。かわい。
子。つまささ。かがと。山登り。手拍子。
林檎どり。黒坊等(律動)
噴水。春が來た。雲雀はあがる。牛若丸。
靴が鳴る等(表情)

北村季晴先生
「對話唱歌」
田邊尚雄先生
「家庭踊」
春の彌生。一つとや。木曾節

本居先生
「童謡」

- 理科家事研究員派遣
- 一、左記の者を六月上旬奈良女子高等師範學校に派遣し
大浦茂樹先生の理科教授の實際指導を受けたり
- | | |
|-------|-------|
| 紫福校訓導 | 笠井秀正 |
| 明木校長 | 伊藤金熊 |
| 高俣校訓導 | 上野マツ |
| 大井校訓導 | 高松鶴吉 |
| 嘉年校訓導 | 波多野一郎 |
- 二、左記の者を六月上旬東京高等師範學校附屬小學校に
派遣し安東先生、戸澤先生の理科家事の實際指導を受
けたり
- | | |
|--------|------|
| 多磨校訓導 | 磯部千尋 |
| 佐々並校訓導 | 内藤尚之 |
| 育英校訓導 | 石川駒市 |
| 椿西校訓導 | 厚母清賢 |
| 徳佐校訓導 | 船越通吉 |
| 明倫校訓導 | 田淵 吉 |

第	順學	週	間時	教授要項	標準	備	教授上ノ注意	聯絡	備考
二一三	一、二、三	一、二、三	一、二、三	衣、目、地、質、的、三、色、合、四、衣服改良ニツイテ、衣服ノ整理保存	織物標本、毛織原料、毛ノ配合	和服洋服	木綿ト毛トノ吸水性、實驗、乾燥洗濯法ヲ教授ス、(實習)	高讀女ニ、服装、同我盛ノ織物、尋理六、人ノ身体、高圖一、尋修五、禮儀	
				藥用石鹼、脱脂綿、アルニール、ガセル、硼酸、石油、石炭、絹、寶創	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

品目	數	量	價額	三、消耗材料表	莫産
衣糊セラチン	一	包	一、〇〇		
フノリ	百	包	一、〇〇		
デキストリン	一袋	一ポンド	三、五〇		
吟生麩	一	袋	二、五〇		
蕨糊	全		二、〇〇		
洗ソノマ	一	ホンド	一、五〇		
洗石鹼	一	瓶	三、〇〇		
マルセル石鹼	一	瓶	二、〇〇		
モノポール石鹼	一	瓶	二、〇〇		
粉末石鹼	一	貫目	四、五〇		
椿ノ油	一	袋	二、五〇		
漂白粉	一	袋	一、五〇		
次亜硫酸ソーダ	全		二、五〇		
硫磺	全		一、五〇		
アンモニア	全		一、五〇		
醋	全		七、五〇		
過マンガン酸加里	全		一、七五		
核	全		二、五〇		
揮發油	全		二、五〇		
染髮料	全		二、五〇		
住イロ	全		二、五〇		
磨粉	全		二、五〇		
ブレートパウダー	全		二、五〇		
亞鉛末	全		二、五〇		
アマニ油	全		二、五〇		
テレピン油	全		二、五〇		
密蠟	全		二、五〇		
柔草	全		二、五〇		
石油	全		二、五〇		
石炭	全		二、五〇		
沈降炭酸石灰	全		二、五〇		
看護	全		二、五〇		
グリセリン	全		二、五〇		

第 一 期		第 二 期	
七	六	五	四
二	二	二	二
小豆飯潮汁魚ノ燒方	魚煮方青さやわんご 蒲鉾、魚串、調味品 蒲葉、餛飩粉、米は	半搗米炊方 魚ノ拵方種類三枚卸 ハ缺ケ 潮汁ハ魚ノあらニテ ナス	割烹心得 一順序 二準備 三清潔 四整頓 五經濟 六經濟付家計簿記 七食品別方 八買物心得 九食品貯藏 一〇燃料 一片付方 野菜切ッ方煮方 飯炊方味噌汁ノ作方 豆腐 麥飯炊方澄汁作ッ方 蒲鉾三ッ葉
柏葉、餛飩粉、米は	小豆、米、鹽、胡麻 魚ノ拵方種類三枚卸 ハ缺ケ 潮汁ハ魚ノあらニテ ナス	大根、筍、牛蒡 調味品、鯉節、ハハハ 豆腐 米、麥蒲鉾三葉調味 品 半搗米魚豆、調味品	脂帳ノ野ノ引キタル 小黑板 割烹室ニテ實習 以下實習 御飯ハにぎりめし豆 腐ノ切方ヲ授ク
			高二女讀本廢物 利用高一理科 ベクターヤ腐販 防腐

第 一 期		第 二 期	
七	六	五	四
三	三	五	三
見學	按摩法	月經時ノ衛生	傳染病豫防
附屬小學校高等科第二學年家事科教授細目	常備藥常備品	傳染病豫防	應急手當
病院醫師問合	綿帶、月經帶、脫脂	綿帶、月經帶、脫脂	綿帶、月經帶、脫脂
	網帶用法實習、綿帶 用法實習	復習的ニ課ス	網帶用法實習、綿帶 用法實習
	高二讀 應急手當	高二讀 應急手當	高二讀 應急手當

期	學	三	第
七 八	六	四 五	二 三
一 三	二	三	二
卒業後ノ心得 交際 5、女子天職	1、主婦ノ心得 2、善良ナル家風 3、一家ノ規律 4、老人奉仕 身体保護 精神慰安	一家ノ經濟 經濟ノ必要 收入ノ支出 豫算立方 貯蓄ノ必要方法種類 善良ナル家庭	2、說話 3、遊ハセ方、玩具 4、遊戲 小兒ノ躰方 小兒ノ性質 示例及教訓 小兒ノ疾病
贈物包方標本	年中行事 日々行事	贈物包方標本	思物、玩具
贈物包方實習	贈物包方實習	尋六讀物價 高二女讀保險	種痘ニ關スル法律ヲ 知ラシム
高一讀 贈物	高一讀 舅姑	高二讀傳染病	高二讀 玩具

期	二	一
一一 二	一 三	一 二
三	二	一
小兒ノ守リ仕方 1、言葉	1、母乳 2、牛乳 3、煉乳 4、乳代用品 5、離乳前後ノ食物 小兒ノ衣服 漬物漬方 正月料理	抱方 負方 睡眠方寢具時間 衛生眼耳鼻喉皮膚 泣方ノ種類原因 運動立ッ頃這フ頃歩 行ノ時 便通 嬰兒ノ飲食物 哺乳 1、母乳 2、牛乳 3、煉乳 4、乳代用品 5、離乳前後ノ食物 小兒ノ衣服 漬物漬方 正月料理
	襦袢襪襪着物 澤庵、糠鹽、桶	抱方負方掛圖 亞鉛華末硼酸ガーゼ 1 脫脂綿 浸模型灌腸器グリス リンググリスリン 牛乳牛乳消毒器 哺乳器哺乳口
	主トシテ數子料理、 豆ノ煮方、口取作り	裁縫科

□私ノ考案セル割烹臺

育英尋常高等小學校訓導 内山 ヨシ

調理を致しますに用具の配置整頓が仕事上に尠からぬ影響を及ぼすことは勿論で御座います。私共の地方の臺所は概して廣い方ですが其割合に割烹用具の配置整頓に留意せられてゐないやうに思はれます。夫れが爲調理上徒らに多くの時間と労力を費して尙其結果が思はしくないやうな弊がありはしないかと存じます

調理上の時間と労力の徒費を防ぐは生活改善上最も急務でありまして是を救ふ爲には用具の改良、調理法の研究等根本問題もあり其他種々考慮すべき点もありませんが差當り割烹用具の配置整頓に工夫して使用上の便を計ることこそこの弊を救済する一方案ではなからうかと考へます

殊に小學校の家事科に於て行ふ割烹實習教授は共同で時間詰の仕事が多うございますから時間をとらず混雑せず、然も有效なる教授をせねばなりませんから尙更上述の感を深くするのでございます

斯る者に基き私は別圖の如き料理台を作りまして自家にも學校にも備へましたが大變便利に思ひます、この料理台は次の様な便があります

- 1、粗流し、こんろ臺、等を別々に要せずこの臺一つに是等の凡てが備へられてゐるから輕便である
- 2、用具の整頓に都合がよい
- 3、用具が手早く求められる
- 4、多人數使用が出来る
- 5、廣き場所を要せず
- 6、一般の家庭殊に臺所狭き内には最も便利である
- 7、運搬に便である
- 8、鼠の害を防ぎ塵がかゝらぬ
- 9、机兼用となる
- 10、堅牢である
- 11、經濟的である
- 12、板の間土間たゞ等何れの場所でも使用が出来る

□第一回紫福村農業經營品評會

入賞者事蹟概要

安野 米藏

六月五日郡内紫福村に於て第一回同村農業經營品評會褒賞授與式を舉行せるか農業經營調査會並同品評會を開催せるは同村を以て本郡内に於ける嚆矢とす當日入賞者事蹟概要等左の如し

原 彌 一

米麥作に付夙に苗代薄蒔を實行し耕地の開墾整理に勉め尙畜産養蠶養鶏林業及家庭工業等に至る迄熱心其業に勵み又木炭製造については實地講習を受け農閑を利用して之が製造に勤むる等其經營理想的にして何れも優良なる成績を收めたり眞に農家の模範たるに足るものと認む依て之を選賞す

服部 重吉

畜産養蠶等につき嘗て組合を組織し自ら率先して以て範を示し尙林業に志し特に竹林を新植し又進んで營業者の難事となす土入れを敢行し杉の植林に到ては其面積廣きに係はらず管理周到なり要するに畜産養蠶林業の經營に於て事蹟顯著なるものと認め之を選賞す

金子 眞吉

米麥作につき進んで先進地の視察をなし其の長を採て之を實施するに努め苗代薄蒔の如きは夙に之を實行し栽培施肥の方法に於ても常に研究的態度を持せり副業として畜産及養蠶に努め特に畜産に熱心にしてその成績顯著なり依て選賞す

佐々木 民藏

米麥作につき常に各種の方面に周到なる注意を拂ひ事蹟見るべきものあり依て選賞す

米麥作につきその經營振り集約的にして多收作をなさんとするものの範となすに足る又蔬菜栽培に深き趣味を有しその成績拔群なり依て選賞す

山影 乙熊

常に耕地の開墾整理を行ひ又深く堆肥の製造に留意し堆肥の構造堆積方法皆優良にしてその量亦極めて多し特に其努力永年に亘り斯種品評會に於て賞を受くること多年あり依て選賞す

吉村 鶴松

比較的少き労力を以て比較的多くの耕地を栽培し而かも其收穫歩合佳良なり依て選賞す

村上 丈吉

勞力少き中に在て稻作一般に涉り之を努め新品種の試作を行ひて希望者に之を配布すること屢々なり又果樹栽培及農産製造に留意する等農業者として其の態度積極的なり依て選賞す

町村産業技術員設置郡費補助状況

大正十年度に於て郡内町村又は町村農會にして産業技術員を設置せるもの萩町外十三ヶ村にして之に對し郡費補助金を交付せるもの左の如し

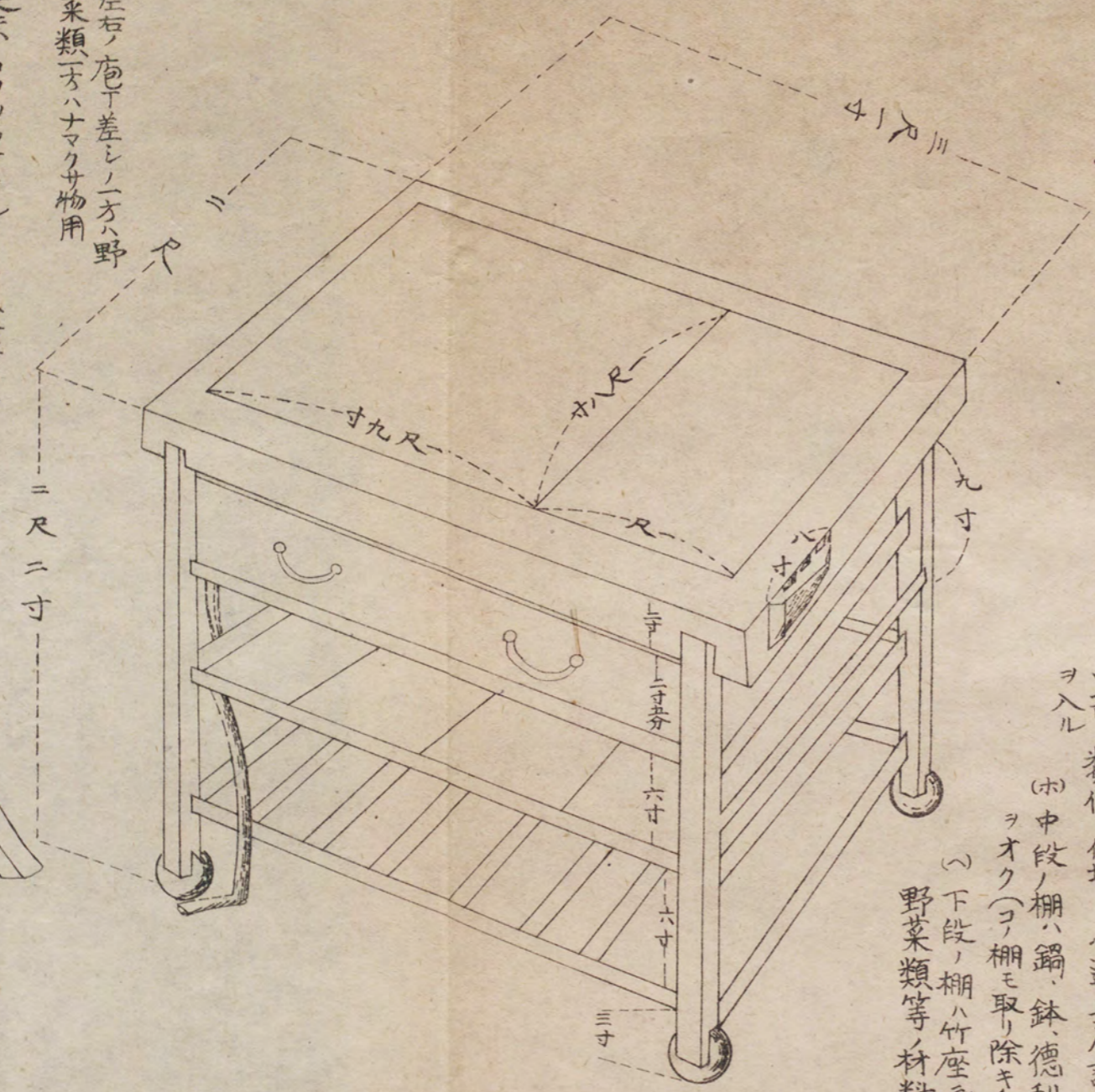
町	額
萩	一六〇圓
椿東村農會	九五
椿村農會	一〇五
明木村農會	九〇
川上村農會	八〇
地福村	九〇
徳佐村	八〇
高俣村農會	九〇
紫福村	八〇
大井村農會	四〇
福賀村農會	八〇
須佐村農會	九〇
小川村農會	八〇
田万崎村農會	八〇
計	一二四〇

村歌

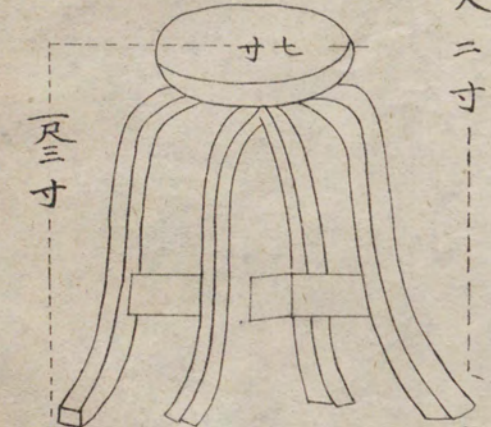
栃木縣河内郡羽黒村

- 一、萬代かけてうごきなき
羽黒の山をうちめぐる
郷こそ我等の樂天地
- 二、人は朴直に驕らず
山美しく水清ら
日々の業をいそしみて
五百あまりの家々の
一つ心と睦むつゝ
- 三、山には常磐の杉扁柏
野は千町田に八束穂の
實り豊けく年毎に
收めて盡きぬ實あり
- 四、天の恵に則りて
腕の限りつとめつゝ
教を弘め地を拓き
あはれ鑑を世に垂れん

- (イ) 左右、庖丁差シノ方ハ野菜類ヲハナマクサ物用
- (キ) 足ニハコロラツケタルタメ前後左右ニ回轉自在
- (ク) 不用ノ際ハ臺布ヲ掩ヒ用具ニ塵ノカラヌヤウナセリ



- (イ) 價格十五円
- (ロ) 上部ニ板ノ板ノ組ニ用フ
- (ハ) 組ノ下ハ亜鉛張ノ流シ及コンロ置所
- (ニ) 引出シハ前後ニ抜カレ (流シ取リ除キ自在)
- (ホ) 下部ラ數個ニ仕切テ小道具及調味品等ヲ入ル
- (ヘ) 中段ノ棚ハ鍋、鉢、鉢、德利、皿等ヲオク(コノ棚モ取リ除キ自由)
- (ニ) 下段ノ棚ハ竹座ヲ魚類野菜類等ノ材料ヲナク



參
考
資
料

學校名	男	女	計	本 順	六 月 分	前 月	位 月
椿西木高上田見並瀬倫濱野井間水年島福呂	九八、二七 九八、〇二 九八、八一 九八、四四 九八、四七 九八、七二 九七、三一 九八、〇六 九七、九三 九七、四八 九七、〇二 九八、〇四 九七、六五 九六、五二 九七、七五 九七、五八 九六、八五 九四、九七	九八、九五 九九、二二 九八、四七 九八、七〇 九七、九八 九七、三一 九八、四二 九七、六八 九七、七二 九七、五五 九七、九四 九六、八四 九六、五一 九七、二八 九五、八九 九五、七一 九四、九五 九七、四五	九九、一一 九八、六〇 九八、六五 九八、五八 九八、二三 九八、〇四 九七、八七 九七、八四 九七、八三 九七、五二 九七、四六 九七、四四 九六、九七 九六、八七 九六、八五 九六、六八 九六、一一 九六、〇五	六月	分	一 二 三 四 五 六 七 八 九 〇 一 二 三 四 五 六 七 八	三 四 五 二 一 〇 一 二 三 四 五 六 七 八 九 〇 一 二 三

目次

- 一、小學校尋常科兒童出席步合表……………一
- 二、同 高等科兒童出席步合表……………二
- 三、大正九、十年傳染病患者比較表……………五
- 四、尋常小學校卒業者進學狀況(大正十年四月)……………六
- 五、同 (大正十一年四月)……………七
- 六、阿武郡農會德佐蘭市場春繭狀況……………八

町村名	尋常小學校		高等科		中等學校		不進學者數		高等科進學		高等科並中等學校進學	
	畢業者總數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	
萩	三〇三	二三四	二二	五	一五	七	七	七	九	五	九	
椿	二一〇	二二三	四三	六	一〇	一	一	一	七	八	八	
山田	六〇	四三	五	四	一	一	一	一	七	七	七	
三木	九五	六八	四	五	二	二	二	二	七	七	七	
明木	七三	五四	四	五	一	一	一	一	七	七	七	
佐並	五八	四九	四	五	一	一	一	一	七	七	七	
川上	七六	五三	四	五	一	一	一	一	七	七	七	
生	六二	四六	四	五	一	一	一	一	七	七	七	
篠	七九	四八	四	五	一	一	一	一	七	七	七	
合	二、一八八	一、四、二二二	一、五二三	五、四四三	六七、一二	六七、一二	六七、一二	六七、一二	六八、〇八	六八、〇八	六八、〇八	

五、尋常小學校卒業者進學狀況 (大正十一年四月)

郡市名	尋常小學校		高等科進學		中等學校		不進學者數		高等科進學		高等科並中等學校進學	
	畢業者總數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	
大島	一、二九八	八二九	二五	四	四	四	四	四	六	六	六	
玖珂	三、二八九	一、八四三	一六二	八	八	八	八	八	四	四	四	
熊毛	二、七六二	一、三八九	八五	二	二	二	二	二	八	八	八	
都濃	二、四二七	一、四一八	一五三	五	五	五	五	五	六	六	六	
佐波	一、八一六	一、〇四	二五七	四	四	四	四	四	七	七	七	
吉敷	二、〇五二	一、六一二	一〇四	三	三	三	三	三	八	八	八	
厚狹	一、九一七	一、三六八	一七一	三	三	三	三	三	七	七	七	
合	二、二一五	一、四一	九七	七〇七	六三、七〇	六三、七〇	六三、七〇	六三、七〇	六八、〇八	六八、〇八	六八、〇八	

四、尋常小學校卒業者進學狀況 (大正十年四月)

郡市名	尋常小學校		高等科進學		中等學校		不進學者數		高等科進學		高等科並中等學校進學	
	畢業者總數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	進學者數	
奈古	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
宇賀	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
福賀	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
須佐	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
彌富	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
小川	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
田崎	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
六島	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
見島	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
合	三九	七六	八三	一九八	六六	九四	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	一六〇	

月 日		數 取		價 量		引 價		量 額		出 荷 町 村	
六月十八日		計		三七〇、九九七〇		三、七一三、〇五〇		高 俣、吉 部		福 賀、彌 富	
二十日		計		一〇四、八五〇		九二九、九八〇		福 賀、彌 富			
計		計		四七五、八二〇		四、六四三、〇三〇					

月 日	數 取	價 量	引 價	量 額	出 荷 町 村
六月十五日	九〇、七三〇	九一三、八五〇	一、一六五	一、〇三七	德 佐、地 福、嘉 年
十六日	三五九、六八〇	三、七三三、九三〇	二、五〇〇	一、〇八〇	篠 生、生 雲、福 川
十七日	三〇八、二七〇	三、〇九〇、八三〇	二、五〇〇	一、〇八七	佐 々 並
十八日	三八〇、三二〇	三、〇八六、九三〇	二、〇七〇	一、〇九七	吉 敷 郡 宮 野
十九日	二五六、四四〇	二、六四六、二四〇	二、二八〇	一、〇九七	全 仁 保、全 吉 敷、 全 山 口、
二十日	一三九、七六〇	一、二六八、四七〇	一、一〇八	九七〇	都 濃 郡 抽 野、全 鹿
廿一日	四六七、八〇〇	四、〇五三、五〇一	一、一〇八	九三九	野、 鹿 足 郡 畑 迫
計	一、九三三、〇〇〇	六、七九三、七五〇		八八九	

六、阿武郡農會德佐蘭市場春繭狀況

自六月十五日 至全月廿一日

合 計	見 島	六 島	田 崎	小 川	彌 富	須 佐	福 賀	宇 賀	奈 古	大 井	紫 福	福 川	吉 部	高 俣	嘉 年	德 佐	地 福
二、二七〇	五五二	一〇七	六三三	五三三	一一〇	四一〇	五〇〇	七〇〇	六八〇	一〇七	五〇七	五〇四	五〇四	三〇四	三〇四	一〇六	六九
一、四九七	二二九	二〇〇	七四	三九	二四	七四	一九	四一	六五	五二	四六	六二	三〇	二五	二〇	六六	四八
一三三																	
六五〇	二二五	三二	三一	二二	二九	三二	二一	九	三五	二二	二〇	四〇	二一	二八	一三	四八	一九
六五、九五	五三、七〇	三八、四六	六九、一六	六一、九〇	四五、二八	六七、二七	四六、三四	八二、〇〇	六五、〇〇	六九、三三	六七、六五	五七、九四	五五、五六	四六、三〇	五八、八二	五六、九〇	六九、五六
七一、三七	五三、七〇	三八、四六	七一、〇三	六三、四九	四五、二八	七〇、九一	四八、七八	八二、〇〇	六五、〇〇	七〇、六七	七〇、五九	六二、六二	六一、一一	四八、一五	六一、七六	五八、六二	七二、四六

□ 他山の石

徳島縣勝浦郡勝占村に於ける吏員の心得

- 一、凡て時間を空費せず期限を違へざること
- 二、諸事の整頓は事務敏活の根本たるを忘れざること
- 三、何事によらず親切丁寧に取扱ひ些事と雖も粗略にせざること
- 四、事を辨するには早計に失せず緩漫に流れず常に始を慎み終を全ふするの心掛あるべきこと
- 五、速に事を成さんと欲せば須らく自ら之を處辨すべきこと
- 六、毀譽褒貶に顧慮するなく自己の所信に依り終始一貫以て事に當るべきこと
- 七、事に樂み業に安んじ功を人に譲り勞を己に求むべきこと
- 八、常に法規を遵守し上司の命令に服従すべきこと
- 九、公事に關しては私事を犠牲にするも敢て辭せざるの覺悟あるべきこと
- 十、他の範を採り亦能く他の範となり長短相補ひ彼此相扶け修養以て事務に練達して自治の發展を期すべきこと

阿武郡報第六十六號

大正十一年六月二十五日發行

◎大正六年十二月十九日第三種郵便物認可

◎毎月一回二十五日發行 一部(代價金拾錢)